

第8問

同棲していた Y 男と Z 女は、スナック経営者を睡眠薬で昏睡させ金品を奪う行為を繰り返していたが、遊び友達の X 女にも「薬飲ませてお金とっちゃおうよ」と昏睡強盗の計画を持ちかけ、三人でスナック S に行き、他の客が帰ったところで経営者 A に酒を勧め、さらに A のグラスに睡眠薬を入れて飲ませた。しかし、A は意識が朦朧とし始めたものの、眠り込むまでには至らなかったため、Y は待ち切れず、A の顔面を手拳で数回殴打し、さらに一回足蹴にしたため、同人は頭部顔面外傷の傷害を負い、気絶した。そして、Y 及び Z は、A のバッグの中から現金等を奪い、X も、Z に促されて、カウンターの上に置いてあった CD 数十枚と、引出しの中にあつた現金数千円を奪った。

なお、Y が A に対して暴行を加え始めた際、X はトイレに行っており、Y が A に暴行を加えるとは思っていなかった。

X、Y、Z の罪責を論ぜよ。

参考判例：東京地判平成7年10月9日